

競 技 注 意 事 項

本大会は、2026年度日本陸上競技連盟競技規則並びに本大会申し合わせ事項によって行う。

1 練習について

練習は、補助競技場および雨天練習場（使用方法について下記参照）を原則とする。補助競技場では道具（マーカー、ミニハードル、ラダー等）を使用した練習はできない。メデイシングボールについては、競技場周辺で使うことができるが、安全に注意すること。投てき競技（円盤投、ジャベリックスロー）の練習については、競技開始前にメイン競技場を使うことができる。練習する際には、現地の審判員の指示に従って行うこと。

なお、本大会は多目的広場が使用できないため、競技前の練習（ウォーミングアップ）は投てき種目を含めて、安全に留意して実施すること。

【練習会場】

(1) メイン競技場

- ① トラックのみ利用を認める、ただし、競技の準備を優先とする。
- ② 利用時間は、開場から競技開始30分前までとする。
- ③ 設置しているハードルを利用しての練習は認めるが、ハードルの移動は認めない。
- ④ 個人の練習道具（マーカー、ミニハードル、ラダー等）を使用した練習は禁止とする。
- ⑤ レーンの使用については以下の通りである。
 - ア) 1～2レーンは周回練習のみ使用可とする。
 - イ) 3～4レーンは短距離練習のみ使用可とする。
 - ウ) 300mHの練習は、スタートからバックスタンド前及び第3コーナーまでとし、女子は8レーン、男子は9レーンを利用すること。また、ハードルは3台までとする。
 - エ) 100mH・110mHの練習はホームストレート側のみとし、100mHは7・8レーン・110mHは9レーンを利用すること。
 - オ) ブロックを利用した練習は、100mスタート付近の5～6レーン、第1曲走路の5～6レーンとする。

(2) 補助競技場

- ① レーンの使用については以下の通りである。
 - ア) 1～2レーンは周回練習のみ使用可とする。
 - イ) 3～4レーンは短距離練習のみ使用可とする。
 - ウ) ブロックを使用してのスタート練習は多目的広場側直走路7～11レーンのみとする。
 - エ) ハードル練習を行う場合は、多目的広場側直走路7・8レーンを100mH、10・11レーンを110mHとする。
 - オ) 第1曲走路からバックストレート及び第3曲走路の5レーンは女子300mH、6レーンは男子300mHとする。ハードルは3台まで設置する。
- ② 個人の練習道具（マーカー、ミニハードル、ラダー等）を使用した練習は禁止とする。
- ③ 投てき競技で、回転投法ではない砲丸投の練習は、トラック外側の砲丸投ピットで行うことができる。また、投てき物を持たない基本練習を行うことができる。なお、練習の際は、係員の指示に従うこと。

(3) 雨天練習場

- ① 雨天練習場でのピストルの使用は禁止する。
- ② 雨天練習場へは、第2ゲート側の入り口より入場することができる。第3ゲートからの入退場は禁止する。
- ③ シート・マット等を敷いて独占的な使用をすることを絶対にしない。

- ④ ウォーキング・ジョギングなどペースが著しく遅いウォーミングアップまたは、動きづくり程度の練習は行ってもよいが、それ以外の練習は、他の練習会場で行うこと。
- ⑤ ウォーキング・ジョギング等は、左回りとし、逆走はしない。
- ⑥ ハードルは使用できない。
- ⑦ 個人の練習道具（マーカー、ミニハードル、ラダー等）を使用した練習は禁止とする。

2 スパイクシューズの制限について

全天候競技場であるため、スパイクピンの長さは9 mm以下とする。

3 アスリートビブスについて

- (1) アスリートビブスは指定された数字が明瞭に見えるように、ユニフォームの胸と背につけること。
- (2) トラック競技に出場する選手は、主催者が準備した腰ナンバー標識を必ずパンツの右横や後方につけること。

4 選手招集について

- (1) 選手招集場所は第2ゲート付近とする。
- (2) 招集時刻は競技時間を確認すること。
 - ※1：円盤投、ジャベリックスローは、現地で招集を行う。
 - ※2：参加人数の多い種目については、段階的に招集を行うので、競技時間に記載している招集開始時刻、招集完了時刻を確認すること。
- (3) 競技者は、招集開始時刻までに招集場で待機し、競技者係の点呼を受ける。その際、競技者係にアスリートビブス・競技用靴の確認を受ける。トラック競技の競技者は、腰ナンバー標識を受け取る。
- (4) 2000mSC・3000mは別ナンバーカードを使用する。別ナンバーカードは招集所にて配布する。
- (5) 招集完了時刻に遅れた選手は、当該種目を棄権したものとして処理する。
- (6) 2種目を同時に兼ねて出場する選手は、あらかじめ競技者係に申し出る。

5 競技について

- (1) 競技順は、プログラム記載の番号順とする。
- (2) その競技をする選手以外は、トラックおよびフィールド内に立ち入ることはできない。
- (3) 短距離走では選手の安全のため、決勝線到着後も自分に割り当てられた走路を走ること。
- (4) トラック競技において、同記録者がでた場合は、写真判定主任により写真を拡大し細部（電気時計1/1000）まで読み取り、着差の判定をする。
- (5) トラック競技の各レースでの不正スタートは、1回目からすべて失格とする。
- (6) スターターの合図は英語とする。（「On your marks」、「Set」）
- (7) 短距離走では選手の安全のため、決勝線到着後も自分に割り当てられた走路を走ること。
- (8) レーンで行う競技種目で棄権者があった場合は、そのレーンをあける。
- (9) 予選におけるトラック競技の走路順、フィールド競技の試技順は、プログラム記載の左側の番号で表す。トラック競技の決勝については、主催者側が公平に抽選をし、その結果を番組編成表示板に掲示する。
- (10) 競技場内での投てきの練習は、審判員の指示によって行う。
- (11) 競技者が、競技場内へ携帯電話等の通信機器・スマートウォッチ、ビデオ・デジタルカメラ等の撮影装置を持ち込むことは禁止とする。
- (12) 助力については、競技場内での助力は禁止とするが、コーチエリア付近（エリア指定あり）からの助言については、競技運営並びに他の競技者の競技の妨げにならない範囲で認めるものとする。コーチエリア付近で、選手に手渡しして映像を見せることができる。選手が指定

エリア外に、機器等を持ち込むことはできない。コーチエリアでのコミュニケーションが終了したら、速やかにコーチエリアから出ること。

6 競技用具について

- (1) 競技に使用する用具は、主催者が用意したものを使わなければならない。
- (2) 練習用としても、個人の用具を競技場に持ち込んで서는ならない。

7 競技場への入退場について

種目別入退場口は下記の通りとする。各ゲートへは競技場外周を利用して移動すること。

- (1) 第1ゲート：第2コーナー付近からスタートするトラック競技、2000mSC
- (2) 第2ゲート：投てき競技
- (3) 第3ゲート：なし
- (4) 第4ゲート：第3・4コーナー付近からスタートするトラック競技

8 その他

- (1) やむを得ず棄権するときは、競技者係まで必ず届け出ること。
- (2) 応急処置を要する健康上の問題が発生したときは、スタンド下の救護室に連絡すること。
- (3) 更衣室は、大会受付後方スタンド内通路を入れて右側にあるので利用してもよい。
- (4) 記録掲示については、競技終了後、大型映像で表示します。競技場メインスタンド下、正面玄関付近での記録掲示は行わない。なお、記録速報は愛媛陸協HPから確認できる。